

講座名（専門科目名）	器官制御外科学（産科学婦人科学）	教授氏名	木村 正
学生への指導方針	<p>MDの方：産婦人科専門医取得前後の卒後5-6年で入学し、1年間は阪大病院の診療を行いながら研究テーマやシーズを相談します。3年間は研究に専念していただきます。</p> <p>Non-MDの方：研究に専念していただきながら産婦人科が取り扱うさまざまな生命現象（生殖、分娩、胎児、女性の内分泌、がん、など）を理解していただきます。</p> <p>学生の自主性を重んじつつ、高いレベルの国際誌へ掲載されるような研究を目指しています。4研究グループ（周産期・病理・内分泌・免疫）のいずれかに所属して研究します。基礎系の研究室で研究を行う事もできます。</p>		
学生に対する要望	<p>好奇心、探究心をもって日々の臨床を誠実に行うと、産婦人科は未解明の問題だらけであることに気がつくと思います。熱意をもって、産婦人科のさまざまな領域の発展を目指してチャレンジして下さい。</p> <p>生殖医療や超音波診断、遺伝カウンセリングなど、産婦人科は多くの non-MD の方々に支えられています。これらの方々、あるいはこれらの職種に興味がある方の研究への参画も歓迎します。</p>		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3351 (Email) jim@gyne.med.osaka-u.ac.jp	担当者	
その他出願にあたっての注意事項等			
研 究 内 容			
<p>産婦人科の4領域、すなわち婦人科腫瘍・周産期（産科）・生殖・内分泌（思春期、更年期など）すべての領域において、非常に基礎的な研究から臨床研究まで幅広い研究を展開しています。現在の主なテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がんにおける白血球/白血球様細胞と治療抵抗性に関する研究 ・卵巣がんの転移播種を制御するメカニズムについての研究 ・卵巣がん、子宮体がんにおける薬剤耐性メカニズムとその解除法の研究 ・子宮肉腫における治療標的分子の探索における研究 ・日本における反復早産の頻度とその予防法に関する研究 ・妊娠高血圧症候群発症メカニズムとその予防法・治療モデルの開発に関する研究 ・子宮内膜の着床能を測定するための研究 ・がん患者の妊孕性温存に関する研究 <p>などです。いずれも分子生物学、網羅的遺伝子/蛋白発現解析、細胞生物学、マウスモデル、ヒト臨床検体解析、多施設共同研究による患者・妊婦リクルートなど多彩な手法をもちいて、教室員の自由な発想のもと研究を展開しています。過去4年間の主な大学院生の学位論文を以下に挙げます。</p>			
著者	研究業績	掲載雑誌・巻・号・頁等	
Mabuchi S., Matsumoto Y., et al.	Uterine cervical cancer displaying tumor-related leukocytosis: A distinct clinical entity with radioresistant feature	J. Natl Cancer Instit 2014 in press	
Matsuzaki S., et al.	Annexin A4-conferred platinum resistance is mediated by copper transporter ATP7A	Int J Cancer 2014;134:1796-809	
Ohyagi-Hara C., et al.	miR-92a inhibits peritoneal dissemination of ovarian cancer cells by inhibiting integrin $\alpha 5$ expression	Am J Pathol 2013;182:1876-89	
Minato K., et al.	Hypoxic preconditioning increases triiodothyronine (T3) level in developing rat brain	Brain Res 2013;1501:89-97	
Kumasawa K., et al.	Pravastatin induces placental growth factor (PGF) and ameliorates preeclampsia in mouse model.	PNAS 2011;108:1451-5	
備 考			
大阪大学産科学婦人科学のHPは http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gyne/www/index.html です。			

